

世界三大ピアノのひとつ C. BECHSTEIN ベヒシュタインを弾く

2月7日〔土〕14時開演 所沢ミューズ マーキーホール
コンスタンチン・リフシッツ〔ピアノ〕 バッハの宇宙

J.S.バッハ：平均律クラヴィーア曲集 第1巻

「ベヒシュタイン」は、1853年にカール・ベヒシュタインがベルリンで創業したピアノ・メーカー。スタインウェイ、ベーゼンドルファーと並び世界三大ピアノと評され、150年以上にわたり一流ピアニストから愛され続けている。19世紀最高のピアニスト、フランツ・リストは「28年間使い続けてきたが、ベヒシュタインは常に最高の名器だ」と述べ、またフランスで新しいピアノ音楽を切り拓いた作曲家ドビュッシーも、このピアノを熱愛し「ピアノ音楽はベヒシュタインのためだけに書かれるべきだ」という言葉を残している。

作曲家ブラームスもこの楽器を高く評価しており、またベルリン・フィルの初代常任指揮者に就任したハンス・フォン・ビューローは「ベヒシュタインは、ヴァイオリニストにとってのストラディヴァリウスやアマティにあたるような名器だ」と述べた。現代では、ケンプやバックハウスといった一流ピアニストが愛用して優れた演奏を生みだしてきたが、一方でナチス・ドイツ政権下では音楽好きだったヒトラーもこの楽器を熱愛し、ベヒシュタインを「第三帝国のピアノ」と称して肩入れしたため、第2次世界大戦末期に製造工場が爆撃をうけ多くの職人や設計図が失われてしまった。大戦後、低迷の時代が続くが1986年には再び資本がドイツへ戻り1989年の東西ドイツ統一後は、透明度の高い澄んだ音色と指先の繊細な動きを伝える精度の高いアクションで、多くの世界的なピアニストを魅了し、かつての栄光を取り戻しつつある。リフシッツもその音色に魅了されたひとりであり、所沢でも澄みきった美しいバッハを響かせてくれるだろう。



ベヒシュタインの最高峰コンサートグランド D282



F.Liszt



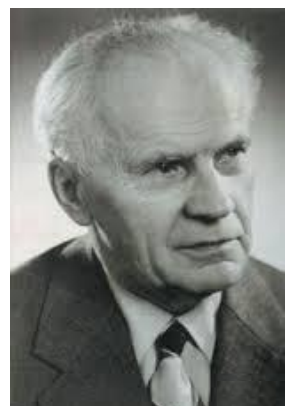
C.Debussy



H.v. Bülow



W.Kempff



W.Backhaus